

社会科総論

1 教科のテーマ

「確かな学力の定着を図る社会科の授業のあり方」

2 研究主題と関わって

教育改革が行われる中、その標語は「新しい学力観」から「生きる力」へ。そして「確かな学力」へと変化してきた。

本校では、「生きる力を育む」を研究主題に、教科学習（必修・選択）や「総合的な学習の時間」のあり方についての研究を重ね、社会科学習においては、問題解決学習を通して生徒に社会的なものの見方や考え方、学び方や解決の仕方を身につけさせることを重視しながら研究に取り組んできた。

その研究成果を受け、一昨年度から「**学びを拓く**」生徒の育成を研究主題に、基礎・基本の定着を図る教科指導のあり方に焦点をあて研究に取り組んでいる。

「学びを拓く」とは、意欲が高まり、主体的に学習を進め自分の可能性を開拓していく力であり、これによって「生きる力」が育まれると考えている〔詳細は総論参照〕。社会科学習では、基礎的知識に加え、思考力や判断力・表現力と学ぶ意欲などをふまえた「確かな学力」を育成することが「学びを拓く」力の育成につながるものと考えている。

3 社会科の基礎・基本

学習指導要領に示されている社会科の目標は、国際化社会や情報化社会、少子高齢化や科学技術の進歩によって急激な変化を見せる社会に対応できる資質や能力、不確実や不透明と言われる将来を生き抜く力の育成という観点から設定されたものである。その目標を達成するための「確かな学力」とは何かと考えたとき、それは社会科の基礎・基本を身につけさせることであり、基礎とは「知識・理解」の部分であり、基本とは「思考力・判断力」である。基礎的知識を駆使し、社会的事象について自分の考えを構築したり述べたり、自分の行動の指針とすることができることが「生きる力」あり、それを身に付いてこそ「確かな学力」が身に付いていると言えるのである。

社会科はその名の通り、社会をわからせる教科であり、例えば人物を通しての学習だとしても、それによってわからせることは、その人物の生き方を理解することではなく、その人物を通じて見えてくる社会の特色や社会の変化（＝社会的事象）を見抜くことでなくてはならない。私たちの社会科では、知識・理解を認識とし、意欲や態度、思考力や判断力などを資質とし以下のように考えている。

- ・ 社会的事象を明らかにすることへの関心（関心・意欲・態度）
- ・ 既に獲得した知識や技能、持っている資質や能力を活用し、新たな社会的事象と比較・統合したりして幅広く社会的事象の意味や特色を考察する力（思考・判断）
- ・ 問題解決に有効な資料を収集し、必要な情報を選択する力（資料活用）
- ・ 考えや意見を交流する力（表現力）
- ・ 社会的事象について、思考・判断する過程で、活用できる知識（知識・理解）

4 コミュニケーション力を育成する学習指導

ところで、本校では平成9年度より3年間「問題解決能力の育成」をテーマに研究を進めてきた経緯がある。その研究では、学習過程に【気づく】【深める】【問い直し】の場面を設け、それぞれの場面で問題発見力、情報操作力、社会的判断力の育成を柱とした学習を構成してきた。この学習形態は、本研究の主題である「学びを拓く」の取り組みの中の、生徒につけたい力のうちの① 主体的に問題解決をする力に合致するものでもある。このことから私たちはこの学習の成果を受け継ぎ、社会科における「基礎的・基本的な学習内容の定着」のために、特に【問い直し】場面に焦点を当てた指導過程の工夫を行うことをもう一つのテーマとしている。

この場面では、資料の再提示や「揺さぶり発問」による新しい課題の提示、「立場討論」や「グループ討論」などによって、生徒自身が自己の考えの見直しや、自分が調べ考えてきたテーマ学習全体を振り返る。また生徒間の交流によって他者の考えと練り合わせて自己の考えを新たに再構成する。これらのことによって、認識と思考力や判断力をより確かなものにさせたいと考えている。

本年度も引き続き、この【問い直し】の場面を指導過程に取り入れ、私たちが「学びを拓く」力として生徒につけたい力のうち、② 自己を表現し、コミュニケーションする力を付けたいと考えている。

加えて、社会科におけるコミュニケーション力とは上記に示したものだけではなく、地域学習における現地の人々からの情報の収集や、さまざまな資料からの情報の読み取りなどの活動から生徒が獲得した情報を再構成する活動もコミュニケーション力のひとつととらえ、問題解決のために有効な資料を収集し、必要な情報を選択する（資料活用）技能の中にも、この力の育成が不可欠であると考えている。

コミュニケーション力とは・・・

(1) 情報を受け取る力

他者の発表から、自分と異なった視点からの考え方や見方を知る力

さまざまな資料が伝える情報を収集し、吟味する力

(2) 情報を発信する力

情報を再構成し、それを表現する力

(3) 情報を共有する力

社会科の基礎・基本の定着＝公民としての基礎的な資質

また、これらの活動は社会的事象が持つ多様な価値観の発見である多面的な見方、社会的事象をさまざまな視点から学ぶという多角的に考察する能力の育成をねらいとした場面でもある。

5 自己肯定的な評価

最後に「学びを拓く」力をとらえるための視点のうち、③ 「学び」を振り返る自己評価力の獲得を感じさせたいと考えている。端的に表現すれば、学習活動の達成感、基礎・基本が身に付いたことを生徒自身に感じ「あること」が「わかる」や「できるようになった状態」を体感させたいと考えているのである。

そこで、私たちは各単元や毎時間の授業での学習目標をより明確にすることに努めている。学習目標とは、「生徒が身につけるべき認識や資質」であり、その拠りどころとなるのは学習指導要領である。

そこから学習目標に評価規準を、指導計画（単元構成表）には本研究のテーマに関わる視点を加え、毎時間の生徒への支援や関わり方、生徒の自己評価表などについての工夫と改善に努めている。

6 成果と課題

① 主体的に問題解決をする力について

このことについては、本研究主題での3年間のみならず、平成9年度からの「問題解決能力の育成」の研究で積み重ねてきた、また【問い直し】の段階を指導過程に取り入れた実践の成果として、生徒達が課題や授業への興味と関心、また意欲を喚起できたことは、生徒の授業後の感想『僕は東京に憧れている。でも何となく東京には住みたくないと思っていた。人の多さやなんだかザワザワした感じがいやだからだ。授業で先生から「埼玉都民って聞いたことがあるか?」と言われ、都心を調べていくと千代田区の人口が約3万人だとわかった。これは僕が思っていた人数とはずいぶん違った。夜は静かなんじゃないかなと思うようになった。だったら何かと便利な東京に住んでもいいな。でも家賃が高いなあ。だったら僕も埼玉都民になるのかなあ。でも通勤ラッシュはいやだなあ。こんなに考えていくと、この課題は終わりそうにない』からも、うかがえる。

授業を展開していく中で課題を提示し、生徒達が課題について理解し、その解決に取り組む。このスタイルでは、単元の目標に沿って指導過程にいくつかの課題が設定され、生徒の学習活動の中に、問題解決の糸口や手段、資料を提示しながら、そして生徒の活動を予測しつつ適切な示唆や援助・助言を行いながら学習が進んでいく。休日を利用して、図書館や博物館を訪れ、資料を収集してくる生徒も見受けられることは、授業者として嬉しい限りである。

しかし、生徒自身が自ら課題を発見して学習を進めていくスタイルで授業を展開すると、「自ら適切な課題を設けて」の場面で、課題の発見に苦労している、与えられた課題を解決していくことで解決のスキルは身に付いたけれども、その活用するに至らないという状態が見受けられた。

② 自己を表現し、コミュニケーションする力について

社会科で身に付けさせるべき資質としての表現力・コミュニケーション力である、地域学習における現地の人々からの情報の収集や、さまざまな資料からの情報の読み取りなどの活動は、生徒達の学習意欲の高まりとともに、プレゼンテーション作品や提案のための資料作りが上手になったことにも見ることができる。

今後の社会科学習の課題の一つとして、(特に地理的分野の学習において) 現地学習の場面を多く設け、その中でコミュニケーション力を培う機会を持ちたい。

③ 「学び」を振り返る自己評価力について

本年度は、1年生で3つ(地理的分野=2 歴史的分野=1)、2年生で3つ(地理的分野)、3年生で4つ(公民的分野)の単位について、ワークシートを使つての学習を展開した。

このワークシート(分野や単元に差違はあるが、4～6時間分)を作成しての学習は、生徒自身が学習活動全体を見通して学習を進めることができ、また学習活動の途中や学習を終えてから自らの活動を振り返る事ができる。ワークシートには学習内容ばかりではなく、自らの疑問や感想・意見、時には「〇〇さんの考え(意見)は……」など、さまざまな「学習の足跡」が残される。この足跡をたどることは、課題解決学習活動を通じて「あること」が「わかる」や「できるようになった状態」を実感するのに極めて有効であったと思われる。

来年度からも、それぞれの分野で可能な限り多くの単位について、学習活動(生徒達が解決すべき課題)を明確にしたワークシートを作成したい。

実践例 1年生 歴史的分野

① 題 材 古代までの日本（文明の発生）

本単元は「文明の発生と東アジア世界」で、本格的な歴史学習が始まる初期の段階に位置づけられる部分であり、何よりも歴史学習に対する興味・関心を高めることが大切と思われる。授業では道具をとおして気候変動に伴う食糧事情の変化を考えること、余剰生産物により社会に貧富の差や階級が成立していくこと、大河の沿岸に文明が成立していくことなどを取り上げていきたい。本時の学習では、食糧を生産することが人類にどのような変化を与えたかを中心にとらえ、農耕や牧畜が始まることが実は文明を生み出すことにつながることをしっかりと認識させたい。

本校の研究主題である「学びを拓く」生徒の育成に近づき、基礎・基本の定着を図るうえで、教科書をしっかりと読み込ませることを意識した。教科書の記述の中で因果関係をさぐり、その結果、何がどう変わったのかを生徒に問いかけていく。教科書を熟読させることは、単なる暗記ではない発展性や可能性を含めた学習につながると考える。それだけに暗記科目という認識から脱却し、考える過程をとおして「なるほど、分かった」と実感できる内容こそが、「学びを拓く」生徒の学習意欲を高めるのではなかろうか。

今回の授業にあたり、生徒たちは、例えばピラミッドなどの知識は表面的にはすでに知っている。そのような段階からピラミッドの専門的な知識を獲得させるのではなく、文明発生の共通性に気づき理解させたい。前授業でクラスを4つのグループに分け、事前に四大文明について調べさせている。本授業では各グループが調べてきたことをまとめ、「シート」に記入し発表する。他のグループが質問しそれに答えることで授業を進めてゆく。その後、全体でまとめ四つの文明に共通する普遍性を見つけ出させるようにしたい。つまり生徒が互いにコミュニケーションすることにより「考える過程」をどのようにたどっていくのかが大切なポイントである。

② 学 習 目 標

基礎・基本	学習の目標	道具の開発や改良により成立した新石器時代の特徴について理解する。 食料の蓄積により生じる影響について考えを深め、社会に階級が成立し、やがて国に統合されてゆく過程を理解する。
関心・意欲・態度	課題に対して積極的に取り組み、自分の考えを導き出すことができる。また、他者の意見との違いについて考察することができる。	
思考・判断	道具の改良や発明が社会にどのような変化をもたらしたのかを考察できる。 農耕・牧畜の発達により食料の蓄積が可能となり、やがて国家が成立するという過程を説明できる。	
技能・表現	資料をもとに余剰生産物がどのように利用されたかを段階的に整理することができる。	
知識・理解	旧石器時代と新石器時代の違いについて理解する。 農耕・牧畜の発達とその影響について理解する。	

③ 学 習 計 画

学習過程	学習の中心	基礎・基本を定着させるための視点	「学びの拓き」に関する力	観点
共通課題 事実認識	人類の出現と進化	サルに似た動物が人類への第一歩を歩み始めやがて文明を築くにいたることを理解する。 人類が進化してきた過程や人類の特	歴史に対する興味・関心を抱き進んで課題解決しようとする意欲や態度を育てる。 道具の改良に着目し、人類の	関心・意欲・態度 思考・判断

		徴を理解する。	進化に興味・関心をもつようになる。	
	日本列島の旧石器時代	日本列島の旧石器時代の人々の様子を具体的にとらえる。	日本列島の始まりについて理解する力を育てる。	知識・理解
	文明の発生 (本時)	古代文明の特色を、生活技術の発達や文字の使用などを通して理解する。	食糧生産が人類にもたらした効果と影響について追求しようとする意欲や態度を育てる。 文明の成立とその特徴について理解する力を育てる。	思考・判断 知識・理解
	中国の古代帝国	中国の古代文明の特色をとらえ、それらが日本に与えた影響について考えることができる。	日本と中国の交流の原点として理解できる力を育てる。	知識・理解
	縄文文化と弥生文化	日本列島で狩猟・採集を行っていた人々の生活について考えることができる。 農耕の開始にともない社会にどのような変化が起きたかを考えることができる。	遺物や遺跡の発見などの具体的な事例を通して、この時期の人々の生活について理解する力を育てる。	技能・表現 関心・意欲・態度 知識・理解
	大王の出現	日本の国家が形成されていく過程を理解する。	大和地方を中心に国内が統一されたことを、中国の文献なども活用してまとめるなど、資料を活用し表現する能力を育てる。	技能・表現 関心・意欲・態度 知識・理解
	古墳文化と渡来人	大和朝廷による国内統一の過程において、当時、大陸から移住してきた人々が我が国の社会に果たした役割を理解する。	資料を通して、古墳文化の特色を理解する力を育てる。 渡来人が我が国に果たした役割について理解する力を育てる。	思考・判断 知識・理解

④ 評価について

項 目	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	主な評価方法
関心・意欲・態度	資料をもとに、それぞれの課題について意欲的に追求することができる。	それぞれの課題について自分の考えを書くことができる。	授業中の観察 ノートの点検 プリントの点検
思考・判断	世界の文明について多面的・多角的に考察でき、かつ自分の考えも書くことができる。	世界の文明について、おおまかにまとめることができ、自分の考えも書くことができる。	ノートの点検 プリントの点検
知識・理解	文明のおこりの歴史について、ノートやプリントをきちんとまとめている。	文明のおこりの歴史について、板書ができています。	授業中の観察 ノートの点検 プリントの点検

⑤ 授業の展開

学習活動	教師の支援	備考
各グループに別れ、文明について調べてきた情報を交換しながら、「発表シート」にまとめる。 「発表シート」を文明別に黒板に貼る。 黒板に貼られたシートを見て情報の補足や質問・意見を出し合う。 各文明のシートを見て、共通点を探る。	各グループを回り、まとめ方や視点について助言を与える。 適宜、生徒の情報に補足を行う。 地図で文明の位置を確認する。	「発表シート」 四大文明地図（プロジェクター）
エジプト文明についてまとめる。	エジプト文明の特徴について説明する。	資料集 プロジェクター
メソポタミア文明についてまとめる。	メソポタミア文明の特徴について説明する。	資料集 プロジェクター
インダス文明についてまとめる。	インダス文明の特徴について説明する。	資料集 プロジェクター
中国文明についてまとめる。	中国文明の特徴について説明する。	資料集 プロジェクター
「農耕」が「文明」の語源であることを知る。	なぜ、Culture（文明）の語源はラテン語のCultus（耕す）に由来するのかを発問する。	ワークシート

⑥ 授業の成果と課題

国家が形成されていく過程のあらましをまとめる学習活動を通して、農耕の歴史的意義を理解させるとともに国家が形成されていく過程について考えさせまとめさせ各班で発表させた。文明が発生する

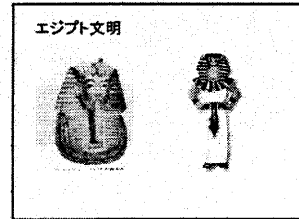
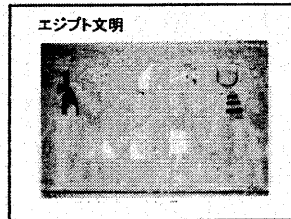
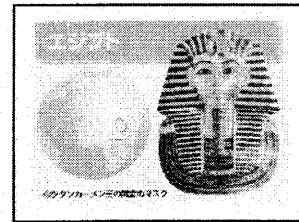
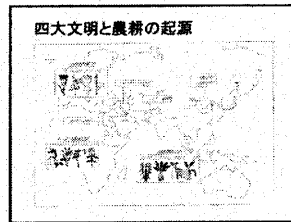


要因を道具の進化、言葉の使用、農耕の発達などから理解させた。また、国家が形成されるまでの過程を原因と結果の関係で構造的にまとめることのできる素地をつくることができた。国家が形成されていく過程について「農耕」をキーワードとして学習を進めた。農耕の広まりが、生活だけでなく、社会をも変えたことについて理解できたことと思う。

当日は、四大文明ということでクラスを4つに分けて活動させた。1グループ10人編成は、学習に参加する集まりとそうで


ない生徒に分かれてしまい課題を残した。やはり1グループ6人程度が学習成果の向上を期待できる。結果、各班まとめたことを発表し羅列しただけになった。その後の授業では各文明の特徴・まとめをして学習を定着させることができた。

四大文明



メソポタミア文明


ハンムラビ法典



太陽神のシャマシュがハンムラビ王に与えたとされている。

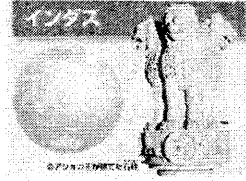
メソポタミア文明

くさび形文字



はじめは絵文字だった（ピクトグラムの時代）。
約2500年前後、くさび形になった。粘土板に削る神聖なものだったので削るために削に似た形になる。

インダス




のブシヨウを神聖でたむけ

モヘンジョ・ダロ遺跡の沐浴場



4000年前の下水道

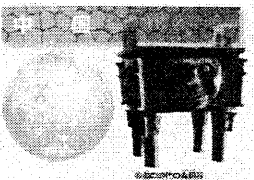


インダス文字の刻まれた印章



モヘンジョ・ダロで多数発見された。そこに彫られた文字は象形文字と推測されるが、いまだに解読されていない。

殷



の殷の時代の青銅器

殷時代の青銅器



甲骨文字

漢字の成り立ち



一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉
戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未
申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳

文明の発生(人類はすごいことをはじめた！)

旧石器時代

狩猟・採集を中心とする生活のため、獲物や食料となる木の葉や果実を採さなくてはならない。

↓

より良い生活を送るためには、() の確保が必要！

新石器時代

道具の工夫・改良、発明が行われた。

どんなものだろうか？

しかし、狩猟の量確保！それは何だろう？

=人間の定住化が進むことになる

考えてみよう…あまった食料をどのように利用するの？

ここで確認！

お金がないこの時代、「食料」は「富(財産)」である。

食料の生産が始まり、社会に() が発生することになる！

↓

次第に、「支配する者」と「支配される者」の区別が生まれ、「国」ができる。

まとめ

「Culture」の語源が「Cultus」の理由

今日の授業の感想を教えてください

旧大文明をまじめよう

エジプト文明

いつ	
どこで	
どんな	

インダス文明

いつ	
どこで	
どんな	

メソポタミア文明

いつ	
どこで	
どんな	

中国文明(黄河文明)

いつ	
どこで	
どんな	

自分で学習を評価してみよう

1 「文明のおこりと日本の成り立ち」の学習を振り返って、どんな力がどの程度ついたか評価してみよう。

- | | |
|----------------------------------|--|
| ①古代の歴史について興味・関心が持てた。 | <input checked="" type="radio"/> A - <input type="radio"/> B - <input type="radio"/> C |
| ②授業中、しっかりノートをとることができた。 | <input checked="" type="radio"/> A - <input type="radio"/> B - <input type="radio"/> C |
| ③授業中、友達の見解をしっかりと聞いた。 | <input checked="" type="radio"/> A - <input type="radio"/> B - <input type="radio"/> C |
| ④国家の成立する道のりを説明できる。 | A - <input checked="" type="radio"/> B - <input type="radio"/> C |
| ⑤四大文明の成立について説明ができる。 | <input checked="" type="radio"/> A - <input type="radio"/> B - <input type="radio"/> C |
| ⑥四大文明の特徴について説明できる。 | <input checked="" type="radio"/> A - <input type="radio"/> B - <input type="radio"/> C |
| ⑦いろいろな資料から、当時の人々の生活を考えることができた。 | <input checked="" type="radio"/> A - <input type="radio"/> B - <input type="radio"/> C |
| ⑧教科書の資料や資料集の内容を理解でき、ワークシートに書けた。 | A - <input checked="" type="radio"/> B - <input type="radio"/> C |
| ⑨日本の成り立ちが、東アジアと深い関わりのあることが理解できた。 | <input checked="" type="radio"/> A - <input type="radio"/> B - <input type="radio"/> C |
| ⑩ワークシートのカッコの欄や表を完成することができた。 | <input checked="" type="radio"/> A - <input type="radio"/> B - <input type="radio"/> C |
| ⑪今回の学習全体を振り返って、興味をもって取り組めた。 | <input checked="" type="radio"/> A - <input type="radio"/> B - <input type="radio"/> C |
| ⑫授業の中で新しい発見があった。 | <input checked="" type="radio"/> A - <input type="radio"/> B - <input type="radio"/> C |

2 上の⑫でAと答えた人は、どういう内容ですか？

今まで、時代が縄文時代からだと思っていて、それが
 氷河時代とか今まで聞いたことがなかったけど
 授業をして、そういう時代が分かって、その時代
 のことの中で発見が多く見かりました。

3 今回の学習の感想を書いてください。

・歴史はもともと得意だけどさらにこの学習で
 歴史が得意になったと思います。
 ・特にこのワークシートの中で得意なのは文明の
 四大文明は、日本の横にあるのは、すごいと思いました。

実践例

3年生

① 題材 「消費生活のしくみと市場経済」

② 題材について

本単元は、身近な消費生活を中心に経済活動の意義や市場経済の基本的な考え方、生産や流通の仕組みのあらましや金融の働きについて学習する。これらの学習においては、なるべく身近な事例を取り扱い、学習内容が網羅的で高度なものにならないようにする必要がある。そこで、単元を通して自分や家族の経済活動を中心にすえて授業を構成した。例えば、「くらしと消費」や「流通のしくみ」の学習では自分の家をイメージしながら、あるいは家族に貯蓄の目的を聞き取ったりするなどの活動を取り入れながら学習を進めている。本時の「貯蓄と消費について考えよう」では、「臨時収入 30 万円をどうするか。」ということで、自分なら何を購入（どのような形で貯蓄）するのかをテーマに学習を組み立てている。

ところで、昨年度、社会科では「問題解決力の育成」に焦点を当て、「問い直し」（社会科総論参照）の場面を指導過程に取り入れることで、思考力や判断力を身に付けさせることを研究の中心とした。本学習においても「和歌山県民の預貯金残高日本一」（統計から見た和歌山の魅力）をもとに貯蓄と消費について、より深く考えさせることを一つのねらいとしている。また、「表現・コミュニケーション能力の育成」を二つ目のねらいとして、すでにあらましを学習している消費や貯蓄について、再度「30 万円をどう扱うのか」をテーマに、友達と交流することで自分の意見を述べたり、相手の意見を聞いて自分なりにまとめたりする場面を指導過程に取り入れた。さらに三点目のねらいとして、ノート形式の学習プリントを生徒に持たせ、さまざまな場面で生徒の考えや感想だけでなく、図表等を書き入れることを行ない、そのプリントを活用することで日々の授業で分かったことを書いたり、各単元の最後に自分の頑張ったところや満足しているところに焦点を当て学習を振り返らせたりすることで自己評価を行っている。

③ 学習目標

基礎・基本	学習の目標
	身近な消費生活を中心に、経済活動の意義や市場経済の基本的なしくみについて意欲的に追求し、くらしと経済活動とのかかわりについて、考察することができる。さまざまな諸資料を比較・検討して、自分の考えをまとめたり、発表したりするとともに、経済活動の仕組みや意義について理解する。
関心・意欲 態度	身近な消費生活と経済や金融とのかかわりに関心を持ち、消費者としての経済活動へのかかわりや流通、生産、市場経済に関する諸問題を意欲的に追求できる。
思考・判断	身近な事例から学習を発展させて、消費生活と経済活動との関係について客観的にとらえなおし、経済についての見方や考え方ができるようになる。また、経済活動が社会生活のさまざまな面と密接に関係していることを考察したり、消費者としての適切な関わり方を判断したりできる。
技能・表現	身近な消費生活と経済活動について、適切な資料をもとに、追及した結果をまとめたり、発表したりすることができる。
知識・理解	身近な消費生活と経済活動について、しくみや意義、その背景について理解することができる。具体的な事例に基づいて、現代社会の生産や流通、金融のあらましについて理解することができる。

④ 学習計画

学習 過程	学習の中心	基礎基本を定着させるための視点	「学びの拓き」に関 わる力	観点
	・消費活動を通して、生活と経済の関係について気づく。	・コンセプトマップをもとに「経済」が身近なものであることや生活と身近なものであることに気づかせる。	追求しようとする意 欲・関心 (問題)	関・意 態

共通課題・事実認識	くらしと消費②	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者の権利と保護について理解する。 ・所得と消費の関係、貯蓄について考える。 ・貯蓄について、意味を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物(おもちゃ・洗剤・説明書等)を見せることで消費者の権利や保護について理解させる。 ・自分の家の収入と支出(Nさんの家計)について考えることから収入や支出・貯蓄について身近なものとして考える。 	資料を活用する力 (問題)	知・理 技・表
	流通や生産のしくみ②	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな商品の流通経路に関心を持ち、流通の仕事について理解する。 ・「流通の合理化」について、考え、意見を交流する。 ・生産のしくみについて「工場」を設立することから考える。 ・株式会社のしくみを理解する。 ・どんな会社に投資をしたいかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者(我が家の食卓)に届くまでを「てっちり」を例に流通を考えていく。 ・「流通の合理化」について、完成させた経路図をもとに考える。 ・「流通の合理化」について、自分の考えを発表し、みんなの意見を聞く。 ・「自動車製造会社」を例に生産のしくみを考える。 ・株式会社のしくみのあらましを知り、投資したい会社を考える。 	自分なりに考える力 (問題) 考えを伝え、まとめる力 (表現)	知・理 思・判 技・表 関・意 態
	市場経済のしくみ②	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ商品でも値段の違いが出るの考え、意見を交流する。 ・いろいろな商品の価格のきまり方を考え、市場経済について関心を持つ。 ・独占価格の影響や公共料金が設けられている理由について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な例をあげて、その理由を考え、その理由をグループ内でまとめる。 ・具体的な価格の動きに焦点を当てて市場経済のしくみを考える。 	自分なりにわかる力 (問題) 考えを伝え、まとめる力 (表現)	思・判 技・表 知・理
テーマ学習②	貯蓄と消費を考える②	<ul style="list-style-type: none"> ・消費行動について考え、自分ならその臨時収入をどのようにするかを考える。 ・15年後の自分の消費行動について考え、交流する。 ・消費、貯蓄の意味について、再度考える。(問い直し) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なら30万円をどのようにするのか自分なりの考えを持つ。 ・自分の考えを伝え、相手の考えを聞き取る。 ・年間小売販売額、預貯金残高のグラフから消費の意味について考える。 ・テーマ学習を振り返り、自分の考えをまとめる。 	自分なりに考えを持つ力 (問題) 考えを伝え、まとめる力 (表現) 資料を読み取る力 (表現) 学習を振り返る力 (問題)	思・判 技・表 技・表 思・判

⑤ 学習の目標 評価基準

過程	項目	A	B	主な評価方法
くらしと消費・流通や生産のしくみ・市場経済のしくみ	関・意・態	<ul style="list-style-type: none"> ・投資したい会社を現代の社会と結びつけて選定し、適切な理由を考えている。 ・毎回の学習について、学習内容に対して適切に感想や意見を書けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・投資したい会社を選定し、その理由を考えている。 ・毎回の学習について、感想や意見を書けている。 	学習ノート 学習ノート
	思・判	<ul style="list-style-type: none"> ・「流通の合理化」について、作成した資料からだけでなく、違った面からも理由付けをしようとしている。 ・同じ商品でも値段の違いが出ることの理由を考え、さらにそのような商品を見つけ出し、理由を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「流通の合理化」について、作成した資料をもとに考えている。 ・同じ商品でも値段の違いが出ることの理由を考える。 	学習ノート 観察・発言 学習ノート
	技・表	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の「将来に備える貯蓄の割合」のグラフを自分のなりの視点で読みとることができる。 ・学習ノートの「生産の集中」のグラフを自分の視点で読み取り、何が問題化を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の「将来に備える貯蓄の割合」のグラフを読みとることができる。 ・学習ノートの「生産の集中」のグラフを読み取ることができる。 	学習ノート 観察・発言 学習ノート 観察・発言
	知・理	<ul style="list-style-type: none"> ・くらしと消費の関係、流通や生産のしくみ、市場経済のしくみについて具体的にとらえている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・くらしと消費の関係、流通や生産のしくみ、市場経済のしくみについておおまかにとらえている 	学習ノート ペーパーテスト
消費と貯蓄を考える	関・意・態	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の学習について、学習内容に対して適切に感想や意見を書けている。ア 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の学習について、感想や意見を書けている。ア 	学習ノート
	思・判	<ul style="list-style-type: none"> ・消費や貯蓄の意味と経済の関係について、幅広くとらえて考えることができる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費や貯蓄の意味と経済の関係について、考えることができる。 	学習ノート 観察・発言
	技・表	<ul style="list-style-type: none"> ・提示されたグラフの特徴やその意味を関連付けて考えることができる。ウ 	<ul style="list-style-type: none"> ・提示されたグラフを関連付けて考えることができる。 	学習ノート

⑥ 指導の手立て

- ア 学習ノート提出時に個に応じてコメントを入れたり、適切に感想や意見を書けている生徒の具体例のプリントを配布したりするなど、学習に対する関心や意欲を高めるようにする。
- イ 既習の内容であるため、「金融機関の預貯金残高」と「小売業年間商品販売額」グラフを提示し、グラフの特徴やそこからわかることを考えさせて消費や貯蓄の意味と経済の関係について考えさせたい。
- ウ 「預貯金残高」と「年間販売額」のグラフをなるべくわかりやすく解説し、販売額が少ないということから何が考えられるのかを問いたい。

⑦ 本時の目標

- ・具体的で身近な事例から貯蓄と消費の意味について考えることができる。(思考・判断)
- ・追求した結果をお互いに伝え合うことができる。(技能・表現)

⑧ 本時の展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援	備 考
1. 前時の学習を振り返る。貯蓄派, 消費派それぞれと意見を知り, 自分の考えを整理する。	前時の学習について, クラス全体の主な意見について伝える。	主な意見のカード
2. 3人の相手と意見交流する。 互いの発表 質疑応答とまとめ	意見交流がスムーズに行われるように生徒の動きや発表時間について, 適切な指示を行う。 (発表の仕方・時間・メモの取り方等) 班で意見交流の結果をまとめるためのポイントを説明する。	ストップウォッチ
3. 話し合いの結果を発表する。	それぞれの話し合いの成果をクラス全体に伝わるようにする。	
4. 消費について考える。	和歌山県民の預貯金の割合の高さから貯蓄の必要性を確認させる。 消費生活と経済の関係について, 消費が増えればどんな利点があるのかを考えさせる。	和歌山の魅力 (和歌山県企画 部統計課)
5. 今日の学習について, 振り返る。	貯蓄と消費について, 授業の感想を書かせる。	

⑨ 結果と考察

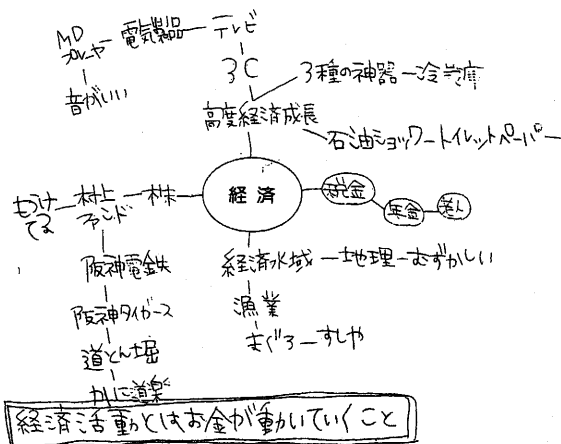
本年度は、社会科におけるコミュニケーション力の育成を中心に実践研究を進めてきた。今回の授業では、貯蓄と消費について自分の考えを周りの人たちと交流し、その過程を通して情報を発信する力や情報を受け取る力、さらに情報を共有する力を身に付けることをねらいとした。また、個人で交流したあとグループでその結果をまとめ多様な意見の交流の場を設定した。また、問い直す場面では県民の預貯金残高と小売業の年間販売額の都道府県別資料を提示することで消費生活と経済の関係について考えさせた。授業後の生徒の感想からは次のような意見が出された。

- ・貯蓄について、今まで深く考えたことはなかったけれど、貯蓄の目的を知り将来のためにはすごく大切だけれど消費することも大事だし、難しいものだと思います。また、その授業では移とり一人いろんな考え方で貯蓄と消費の使い分けは本当に難しいものだと思います。
- ・自分は消費派だったけれど、思っていたとおりクラスでは貯蓄派の人のほうが多くて、自分とはまったく違う意見や思わずうなずく意見を聞いてよかったと思いました。
- ・印象に残っているところは貯蓄と消費の授業で、みんなと交流したりいろんな意見が分かったりし、自分の意見をしっかり持つことができたことです。みんなと交流する中で「なるほど」という意見もあったし、自分の考えに対して人はこう思っているんだという発見もありました。

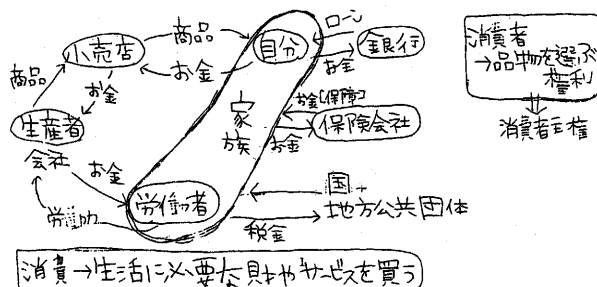
くらしと消費 ①

★ わたしたちのくらしと経済活動はどのようにかかわっているのだろうか。

1. 経済活動って何? 「経済」という言葉から思いつく単語をいっぱい連想してみよう。



- ## 2. わたしたちの経済活動とは？



★ 消費者の権利と保護 企業がわざわざ商品の一部を変更したのはなぜか。

- ### 3. リカちゃん人形の工夫

消費者の権利と保護



- ◎多様な消費活動
(・コンビニ、スーパー、100均ショップ
・通販、インターネット、訪問販売、etc
24時間営業。子ども～老人)

製造物責任法(PL法)
(1995年)

トランプル
消費者 - 消費者運動
行政の対応

消費者契約法(2011)
クーリング・オフ
(8日以内, 20日以内)
→ 契約の解除

- #### 4. 気をつけよう、悪習療法

マルチ (まがい) 電法



キャッチセールス

アポイントメントセールス



SF (僅三) 司

4. 学習を振り返って、質問や意見・感想を言おう。

経済は幅広い種類があることがわかった。
 経済生活をしていく上で(すんの経済生活)をしていく
 う、物が買えたりしてると思、た。消費者の権利は品物
 を選ぶ権利があるあたりまえのこととちゃんと権利にな
 っていることがわかった。悪質商法は自分で気を付けてお
 かなければまずまけてしまうから物を買ひ時、ちゃんと選んで
 から買わない方がいいなと思った。

社会科プリント
キーワード: 支出, 収入, 貯蓄

くらしと消費②

★ わたしたちは、どのように収入を得て、どのように使っているのか。

- ## 1. 支出と収入

項目	金額
合計の収入	1000000

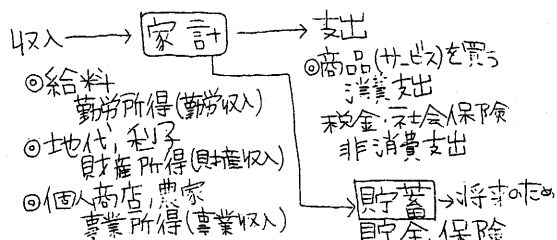
あなたの家にはどこからお金（収入）が入ってくる？

- ① 会社(給料) ② 不動産所得
③ 利子 ④ 勤労所得
⑤ _____
⑥ _____
⑦ _____
⑧ _____
⑨ _____
⑩ _____

還計の支出

あなたの家ではお金（支出）を何に使っている？

- ① 食料
② 服
③ 習い事
④ 水道
⑤ カス
⑥ 電気
⑦ 話
⑧ 保険代
⑨ 税金
⑩ 学



2. **貯蓄**は何のために？

どのようなかたちで貯蓄をしているのか。

- 預金 → 銀行、郵便局……
 - 定期預金、普通預金
- 保険 → 生命保険、火災保険、自動車保険
- 株金 (ゴールド) ハイリスク、ハイリターン

貯蓄の目的は何か。(教科書 P.107 右下グラフ参照) $y = \frac{1}{1+r}$ (お金の価値を高く!) $y = \frac{1}{1+r}$ (お金の価値を高く!)

貯蓄の目的は将来の支出に備えるものであるが、
教科書のグラフでは貯蓄しないで毎日の生活に充
てて暮らすという割合が昔々より多いから、現代の
人は将来を考へない人が多くなったと思ふ。では生
きていく中でいつ何が起きるか分からないからやむを得ず
貯蓄は大事だと思ふ。

あなたの言葉にも肝心の意味（目的）を聞きましょう。

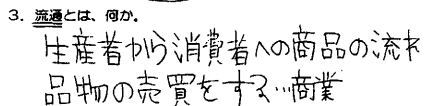
将来のために付けている。

3. 単語を繰り返って、発音や意味・感想を言おう。

収入の中には、種類別の収入があることを知った。
家言というものは家族など生活してい中でお金をど
のように使うかという考えをお金が増えていくに
くちゅうないからいいと思うけど大事なことにしな
いの。来月の見舞金も保険でお金をいれたいから
いてはいいが将来のためにいいかなと思った。

★ 生活に必要な物(商品)は、どのようにしてわたしたちの手元に届くのか。

2. どのような経路で商品は流るか
「野原家、てっちり(ふぐちり)」をき、()に材料をさきましよう。



- ・流通の合理化
市場をとばして生産者から直接買う。
だから生産者から買うと安くなる。
・大量仕入れ、大量販売


5. さまざまな形の小売業
- 小売店
- 西ヤ 100均 (什物)
 - 米ヤ 肉ヤ
 - 八百ヤ おかず 文具
 - 服ヤ おてあがり 洋服
 - 服ヤ 本ヤ 靴
- スーパーマーケット
- 食品スーパー
 - 総合スーパー
 - 大型スーパー
- CVS → 100均ショップ
- (コンビニ)
 - 飲食店
 - 教室
 - さまざまなもの
 - 2人3人
- 大型スーパー
6. 宇宙を漂い返って、時間と空間・感想を書く。
- 流通のしくみは生産者から卸売業者を経て小売業者で消費者という順番に流れていくことがおかしなスーパーは低価格で売っている、生産者所直接買っている(中に入らずに消費者が直接買っている)ことがあった。小売業者のスーパーになり、スーパーの大型のスーパーがコンビニ、100均へとなってきたから、もう1つ考えた。

★ 企業はどのような役割をはたしているのか。会社をおこすには？

- お金(モノ) → 資本 → 金
資本主義経済 → 利潤
会社 ⇒ 企業
資金 = 資本 = 金
- 

- 企業の種類と役割
- 公企業 $\left\{ \begin{array}{l} \text{国} \cdots \text{郵便, 公団} \\ \text{地方公共団体} \cdots \text{水道, 鉄道} \end{array} \right.$
- 私企業 $\left\{ \begin{array}{l} \text{個人企業} \cdots \text{農家, 個人商店} \\ \text{法人企業} \cdots \text{株式会社, 農協} \end{array} \right.$

- 株式と工 (1株 = 50円)
- Y₁ 自由 500万円 10万株
- 資本 (1000万円)
- Y₂ { S₁ 100万円 2万株
M₁ 100万円 2万株
K₁ 200万円 4万株
A₁ x
T₁ 100万円 2万株

- こんな会社
人々地球に害のないものを作りたい。
- その理想
地球温暖化を抑え、川の汚染を減らし、
水質を良くし、排気ガスの少ない車や害のない農薬など
でできた様々な製品を作りたいと思う。
- こんな会社があったらいいなあ。
きっと喜ばれ伸びるだろうな。
- 

- 会社をおこすには、たすの労働力、資本、土地として
 つかかりました。株式会社のしめは、とても、つうて
 つかかりな会社は、会社がもうかれば、株主がかり、
 もうかれば株主が下がり、ふていへんたし、運もし
 るかと思ひました。

消費と貯蓄を考える②

1. みんなで、考えを交流しよう。

交流メモ (自分の意見をしっかりと述べ、相手の意見を聞く)

交流者 (くん)	交流相手の参考になる考え方
<p>相手の考え 消費 (貯蓄)</p> <p>事故、災害の時のためにためておく</p> <p>相手の考えに対する自分の考え</p> <p>私もいい考えだと思うし大切なことだと思う</p>	<p>事故などとはいつ起きるかかわからないのでその為のためにためておくのはとてもよいと思う。</p> <p>自分の考えで、相手が参考になったところ</p> <p>「一気に使ったあとが心に悪いからあまりよくないかも」と言っていた。</p>
交流者 (さん)	交流相手の参考になる考え方
<p>相手の考え 消費 (貯蓄)</p> <p>少しかけて残りはためる</p> <p>相手の考えに対する自分の考え</p> <p>ほしい物にお金使えて残すお金もあるのはとてもいい</p>	<p>計画的に予算をたて、使う分と残す分を決めるならいいと思う。</p> <p>自分の考えで、相手が参考になったところ</p>
交流者 (くん)	交流相手の参考になる考え方
<p>相手の考え 消費 (貯蓄)</p> <p>もしもの時に、ためておくと思えるから</p> <p>相手の考えに対する自分の考え</p> <p>その通りだなと思う</p>	<p>今後何があるかわからない、お金が必要になるかもしれないのでいい考えだと思う。</p> <p>自分の考えで、相手が参考になったところ</p>

2. グループでまとめましょう。 発表者 () さんくん

○どんな意見が多かったか... ○その理由となる理由は... ○グループとしての考え方は...

貯蓄派が多い(ためておいて後で使う、もしものために... など)
消費派には「急行にのりた」という意見があった。
「将来何があるかわからないから貯蓄することが大切、グループがまとめ

3. 班の発表を聞いて、自分の考え... 感想も書めて

○考えに変化があるか。 なぜ、変わらない(変わった)のか。 結果を聞いてどう思ったのか。

現王としての考えをきいて、自分の考えは変わりませんでした。
班の考えと、自分の考えが一緒なのが良かったです。
「将来のため、もしものため」が多くて、みんな先のことまでしっかり考えられてすごいと思いました。

4. 「貯金残高日本一」について考えてみよう。

和歌山... 貯金残高 NO.3
小売業 ワースト2

ということは、和歌山人はあまりお金を使わないと思います。
必要最低限のものしか買わない「ケチ」の人が多くいかもしれない。
あと、逆に小売業がワースト2だからこそ、貯金がNO.3なのだと思います。
売り上げがそんなにないから、将来がに自己になってとにかく貯金しているからじゃないかと思っています。

6. 学習を振り返って、質問や意見・感想を書こう。

人によって色々な感じ方があるから、貯蓄でも消費でも、両方正しい道だと思いました。貯蓄したら、将来のために役立つし、消費したら、自分のほしいものを手に入れられて、どちらにしろ満足できると思います。ただ、お金はとても貴重なものなので大切に、使っていきたいです。

本時配布資料

43. 金融機関の預貯金残高(人口1人当り)

都道府県	77年	87年	97年	預貯金残高
東京	1	2	3	15,694
神奈川	2	3	4	9,949
千葉	3	4	5	9,352
★和歌山	4	5	6	9,018
茨城	5	6	7	8,904
埼玉	6	7	8	8,792
東京	7	8	9	8,725
東京	8	9	10	8,687
東京	9	10	11	8,603
東京	10	11	12	8,488
東京	11	12	13	8,134
東京	12	13	14	8,020
東京	13	14	15	7,981
東京	14	15	16	7,863
東京	15	16	17	7,790
東京	16	17	18	7,790
東京	17	18	19	7,732
東京	18	19	20	7,487
東京	19	20	21	7,326
東京	20	21	22	7,317
東京	21	22	23	7,273
東京	22	23	24	7,254
東京	23	24	25	7,149
東京	24	25	26	6,996
東京	25	26	27	6,969
東京	26	27	28	6,968
東京	27	28	29	6,796
東京	28	29	30	6,749
東京	29	30	31	6,723
東京	30	31	32	6,406
東京	31	32	33	6,361
東京	32	33	34	6,332
東京	33	34	35	6,142
東京	34	35	36	5,992
東京	35	36	37	5,990
東京	36	37	38	5,946
東京	37	38	39	5,330
東京	38	39	40	5,454
東京	39	40	41	5,454
東京	40	41	42	5,257
東京	41	42	43	5,275
東京	42	43	44	5,132
東京	43	44	45	5,186
東京	44	45	46	4,884
東京	45	46	47	4,801
東京	46	47	48	4,790
東京	47	48	49	4,922

47-2. 小売業年間商品販売額(1商店当り)

都道府県	77年	87年	97年	年間販売額
東京	1	2	3	140.7
神奈川	2	3	4	138.7
千葉	3	4	5	130.9
千葉	4	5	6	128.7
千葉	5	6	7	123.0
東京	6	7	8	122.7
東京	7	8	9	111.4
東京	8	9	10	108.9
東京	9	10	11	103.7
東京	10	11	12	102.6
東京	11	12	13	101.2
東京	12	13	14	101.2
東京	13	14	15	100.5
東京	14	15	16	99.2
東京	15	16	17	99.1
東京	16	17	18	98.9
東京	17	18	19	97.7
東京	18	19	20	97.6
東京	19	20	21	97.1
東京	20	21	22	96.9
東京	21	22	23	93.9
東京	22	23	24	93.9
東京	23	24	25	92.6
東京	24	25	26	91.6
東京	25	26	27	88.8
東京	26	27	28	88.4
東京	27	28	29	87.9
東京	28	29	30	87.7
東京	29	30	31	86.2
東京	30	31	32	85.7
東京	31	32	33	83.5
東京	32	33	34	83.1
東京	33	34	35	81.8
東京	34	35	36	80.5
東京	35	36	37	79.7
東京	36	37	38	79.6
東京	37	38	39	78.8
東京	38	39	40	77.0
東京	39	40	41	76.5
東京	40	41	42	76.1
東京	41	42	43	75.9
東京	42	43	44	72.1
東京	43	44	45	70.7
★和歌山	44	45	46	67.2
和歌山	45	46	47	67.7

学習の振り返り

1. 「わたしたちの生活と経済」の学習を振り返って、どんな力が、どの程度ついたか評価しよう。

- わたしたちの生活の身近な経済活動に関心を持って授業に取り組めた。 A-B-C-D
- わたしたちの身近な経済活動を理解できた。 A-B-C-D
- わたしたちの身近な経済活動をさまざまな角度から考えて、自分の意見を言えた。 A-B-C-D
- 様々な資料の特徴を読みとれた。 A-B-C-D

2. 今回の学習で、どんなことが印象に残っているか、また、さらに知りたいことは何か。プリント、教科書を参考にして自分の学習を振り返ろう。

印象に残っていること (どの学習のどんなことが、なぜ印象に残っているか)

・スーパ- (100均) の低価格販売について。

・スーパ-とか、安売り!、って言ったって売って行くこともあるし、身近なものって思ってたけど、実は裏で色んな手があるなって知った。すごい... と思わず口から言葉が出ました。95%。

・自分はお金を持っていたら、どうするが。

私は消費派だ! たけど、思ってたよりクラスでは貯蓄派の人が多いから、自分と全く違う意見、思わすうなすくような意見を聞けて、良かったな、と最後に、学習全体を振り返って、興味を持って取り組めた。 A-B-C-D 思いました。こういう授業授業の中で新しい発見があった。 A-B-C-D 大好きです。

3. 今回の学習の感想を書きましょう。

経済活動とか、あんまり興味がなかったから、先生の話とか聞いてそれきりだったけど、聞いてて、これすごいな! とか、こうは希望もやっちゃんやな... とか、新しく知ったこととか沢山あって、今回は何が手についた感じがします。

消費派 or 貯蓄派、や、経済のイメージが3A版は、クラス全体の意見なども聞いたり聞いたりして良かったです。

新しい世界が開けた感じでして。

100の指標からみた和歌山

平成17年 和歌山県統計課